

# 名古屋大学地震防災訓練

## 説明会資料

### [全学一斉訓練]

- 0 1 名古屋大学地震防災訓練実施計画
- 0 2-1 名古屋大学地震防災訓練進行表
- 0 2-2 名古屋大学地震防災訓練進行表（詳細版）
- 0 3-1 講義中の皆様へ（教員）
- 0 3-2 講義中・報告様式
- 0 4-1 研究室に在室されている皆様へ（教員）
- 0 4-2 研究室滞在・報告様式
- 0 5 交通規制について
- 0 6 学生一斉避難チラシ
- 0 7 被災建築物応急危険度判定センターと救護センターの設置について
- 0 8 その他関連訓練
- 0 9 放射性同位元素等取扱施設における状況通報書
- 1 0 ブロック自衛消防隊の対応について

### [全学自衛消防隊]

- 1 1 全学自衛消防隊・ブロック・集計様式

### [ブロック 本部隊]

- 災害対策室長からブロック防災管理者への依頼文
- 1 2 本部隊・チェックシート
- 1 3 本部隊・建物隊避難者・集約様式

### [ブロック 建物隊]

- 1 4 建物隊・チェックシート
- 1 5 建物隊・訓練結果・報告様式
- 参考 建物隊・訓練中・報告用紙

## 平成 25 年度名古屋大学地震防災訓練実施計画

## 【目的】

南海トラフの巨大地震が発生することを想定し、大地震が発生した場合、大学の実効性のある対応能力の向上を図ることを目的とする。

## 1 実施日時

平成 25 年 10 月 29 日(火) (時間帯は、『4 主要訓練項目』のとおり)

## 2 実施場所

東山地区、鶴舞地区、大幸地区、東郷地区ほか

## 3 訓練の想定

名古屋市内で震度 6 強を観測する地震。

午前 11 時 30 分に緊急地震速報、10 秒後に地震発生(地震の揺れは 2 分間継続)。ライフライン(電気、電話、水道、ガス)及び公共交通機関は地震発生直後にすべて停止。

## 4 主要訓練項目

実施時間	実施事項	事前準備等の関連事項
(1)全学一斉避難訓練 (学生・教職員ほか全員)		
11:30～12:00	(緊急地震速報発令、地震発生時) 大学内構成員は、安全姿勢確保 (地震の揺れが収まったら) ・学生等は、授業実施教員又は研究室の教員等の指示に基づき、一次避難場所に避難 ・建物内の大学教職員等は一次避難場所に避難 (避難完了後) ・一次避難場所で人数確認等を実施 ・解散後、全構成員は安否状況入力を実施	・一次避難場所を選定(部局及びブロック) ・授業用・研究室用の教員向けマニュアル作成及び配布 ・学生向けチラシ作成 ・一斉避難訓練中の東山地区の車両規制
(2)自衛消防隊活動訓練 (ブロック自衛消防隊建物隊・本部隊、全学自衛消防隊)		
11:30～12:30	(緊急地震速報発令、地震発生時) 自衛消防隊員は、安全姿勢確保 【ブロック 建物隊】 ・行動マニュアルと地震時チェックシートに基づいて行動(避難誘導、避難者の人数確認、建物の緊急点検、本部隊への報告など) 【ブロック 本部隊】 ・行動マニュアルに基づいて行動(ブロック本部の設営、建物隊の行動集約、全学自衛消防隊への報告など) 【全学自衛消防隊】 ・災害対策本部の設営、館内放送設備・防	・ブロック自衛消防隊による行動マニュアルと地震時チェックシートの作成 ・ブロック連絡調整会議の開催 ・ブロック独自講習(放送設備、トランシーバーの取扱いなど)

	災無線設備による緊急放送等、トランシーバーと防災無線による各ブロックの情報の集約など ・救護センターと応急危険度判定センターの設置実施	
<b>(3)災害対策本部活動訓練等 (災害対策本部員、本部事務局)</b>		
訓練視察 11:00～12:30	<b>【災害対策本部長、本部員】 11 時</b> ・災害対策本部に集合、東山地区の各ブロックの一斉避難訓練視察。ブロック防災管理者が対応 <b>【災害対策本部長】 12 時</b> ・視察先のブロックから全学一斉避難訓練の終了放送を行う	・視察先一覧を準備 ・災害対策本部会議は午後実施
図上訓練 13:30～15:00	<b>【災害対策本部長、本部員、本部事務局】</b> 13:30 開始 ① 訓練視察に関する意見交換 ② 図上訓練(地震時チェックシートの確認、課題に基づく討論指示等) 災害対策本部事務局と連動 ③ 講評	・災害対策本部の地震時チェックシートを作成

## 5 事前準備

- ・自衛消防隊（全学自衛消防隊及びブロック自衛消防隊〔本部隊、建物隊〕は、事前にそれぞれの分担する範囲の地震被害想定と地震時行動マニュアルを策定する。
- ・災害対策規程及び地震時行動マニュアルに基づき地震時チェックシート等を整備
- ・トランシーバー、ハンドマイク、ヘルメット、自衛消防隊用ベスト、その他避難誘導及び避難者の点検に必要な資機材
- ・ブロックの状況に応じて、構成員向けに避難誘導時の指示内容などに関する教育を行う。
- ・東郷地区等においても、地震時行動マニュアルの整備を進め訓練を実施する。

## 6 地震防災訓練前後の関連行事の予定

- ・各ブロックの独自訓練（消火器取扱、ブロック本部設営訓練などを各ブロックで企画）
- ・留学生等対象防災訓練(10月26日国際嚶鳴館付近)及び留学生防災セミナー(10月30日)
- ・部局及びブロック担当者向け地震防災訓練説明会(9月に実施、避難誘導の進め方等)
- ・自衛消防隊向け防災講習（放送設備及びトランシーバー取扱、被災建物判定学習）
- ・本部事務局の図上訓練(10月8日環境総合館レクチャーホール)

平成25年度 名古屋大学地震防災訓練 進行表(案)  
平成25年10月29日(火)

[02-1]

- 【想定条件】 1. 南海トラフの大地震が発生、名古屋市内で震度6強を観測。地震発生直後から停電、その他のライフラインや交通機関は停止。  
2. 準備した発電機は使用可。学内通信手段はトランシーバが使用可。  
屋内放送設備、屋外防災無線による一斉放送は、バッテリーによりしばらくは使用できる。  
3. 学内建物のいくつかでひび割れなどの損傷が発生。けが人が複数発生。

時刻	事項	学生、教職員等の行動	自衛消防隊・災害対策本部の行動			
			ブロック(建物隊)	ブロック(本部隊)	全学自衛消防隊	災害対策本部
事前準備	主な事前準備項目、昨年との相違などの留意点	緊急地震速報、安全姿勢、一次避難場所などについて、学生向け、教員向け(教室用、研究室用)などの資料を作成、配布し、周知する。	あらかじめ被害想定に基づく地震時行動マニュアルおよびチェックリスト等を作成・準備して、それに準じて行動し、確認する。 自衛消防隊も11:30地震発生から行動を開始する。	災害対策部本部 初動の確認のみ行う。	あらかじめ被害想定に基づく地震時行動マニュアルおよびチェックリスト等を作成・準備して、それに準じて行動し、確認する。 本部事務局では事前に災害対応に関する図上訓練を実施する。	災害対策本部・事務局の活動を確認し、チェックリスト等を準備する。全学避難訓練時はブロック状況の視察を行い、午後から図上訓練を実施する。
10:20	地震防災訓練の当日周知放送(館内放送)		【放送文】(日本語、続いて英語でアナウンス。) こちらは防災推進本部です。こちらは防災推進本部です。 本日、11時30分より、全学一斉避難訓練を行います。全員の参加をお願いします。 11時30分に「訓練緊急地震速報」が流れ、その後、約2分間揺れ続けると想定しています。 強い揺れに対する安全姿勢をとってください。そのあと教員や自衛消防隊員の指示に従って、建物外に避難してください。			
10:30		授業担当教員は、授業開始時に、11:30前に授業を終えて全学一斉避難訓練を行うことを説明。説明資料を配布して、安全姿勢や避難時の注意を行う。				11時に災害対策本部に集合。視察の打合せ。
11:30		11:30までに授業を終了し、待機		防災管理者は災害対策本部員の視察に対応		避難訓練開始までに視察場所に移動・待機
11:30	一斉放送による緊急地震速報(館内放送・防災無線)		【緊急地震速報】(緊急地震速報システムによる訓練放送。専用のチャイム音と日本語録音が自動的に流れる。) ただいまから緊急地震速報の試験放送を行います。あと10秒で揺れます。予測震度は6強。身の安全を確保してください。落下物に気を付けてください。揺れが収まるまで身を守ってください。			
11:31	一斉放送による訓練地震発生の説明(館内放送・防災無線)		【放送文】(日本語、続いて英語でアナウンス) これは訓練です。これは訓練です。地震の強い揺れが続いていると想定して、直ちに安全姿勢を取ってください。 (地震の擬音が約2分間流れる。) これは訓練です。ただ今強い地震が発生しました。自衛消防隊や教職員の指示に従って避難を開始してください。			
	揺れの継続中	場所に応じて安全確保の行動をとる。教室では安全姿勢、実験室など危険性の高い場所では速やかに廊下等へ避難。教職員は適切な指示を行う。	各自で安全を確保する。一般の部屋では机の下等で安全姿勢。			一斉避難訓練の状況を視察(ブロック防災管理者などが同行)
11:33	揺れの終了後、一斉避難	避難開始。落ち着いて建物周辺の一次避難場所へ移動。教職員・自衛消防隊員は避難を誘導する。	建物隊の活動開始。各班で地震時行動マニュアルに基づいて行動。建物内の状況に応じて避難誘導等を行う。	ブロック本部隊の集合、活動開始。地震時行動マニュアル等に準じて活動。	全学自衛消防隊の集合、活動開始。地震時行動マニュアル、チェックリスト等に基づき、本部の設置、ブロックとの連絡、ブロックの状況の集約等を実施。	
	避難後	一次避難場所で点呼・人数確認等を実施。	点呼・人数確認。状況をブロック本部隊へ報告。	建物隊の参集状況集約、本部へ報告(トランシーバ等)		
11:55	一斉避難の完了確認	安全を確保し、指示があるまで待機。	避難者の対応等	本部に一斉避難訓練の状況を報告	一斉避難訓練の状況報告を受ける。	
12:00	一斉避難訓練終了の宣言(館内放送・防災無線)		【放送文】(総長アナウンス) こちらは災害対策本部長です。・・・(総長のメッセージ)・・・ これで一斉避難訓練を終了します。ご苦労様でした。			災害対策本部長(総長)は、視察先で一斉放送を実施
12:02	避難者解散 安否状況入力開始	放送および自衛消防隊の指示等により訓練終了、解放。 安否状況入力開始	建物隊長等が、一次避難場所待機している学生・教職員に簡単な講評を述べる。 建物隊は引き続き活動。建物点検や負傷者救護などの訓練を実施。活動状況を本部隊に報告。	本部隊は引き続き活動。建物隊の建物点検や負傷者救護などの訓練を継続。活動状況を全学自衛消防隊に報告。	引き続きそれぞれの活動を継続。救護センター、応急危険度判定センターの設置、活動開始。	ブロック自衛消防隊の訓練状況を視察
12:30	ブロック自衛消防隊訓練終了		ブロック長の指示により訓練を終了 安否状況入力の実施		統括管理者の指示により訓練を終了 安否状況入力の実施	視察終了、災害対策本部に戻る。 安否状況入力の実施
12:30~13:30	昼食				昼食等	昼食等
13:30	防災訓練状況の意見交換		(ブロック独自訓練開始)	(ブロック独自訓練開始)	災害発生2時間後を想定して、地震時行動マニュアル・チェックリスト等に準じて活動内容を確認。	避難訓練の視察に基づく意見交換
14:00	災害対策本部図上訓練				事前に実施した本部事務局図上訓練の内容を基に、部単位で課題内容の検討と対応案を提示	課題に対して必要な対応を本部事務局に指示し、報告に基づいてその後の対応を決定。
15:00	図上訓練終了					講評(参事)
訓練後	評価、報告書作成・提出		当日の活動状況、地震時行動マニュアルの妥当性などに関する報告書を作成	訓練実施内容を振り返り、特に建物自衛消防隊の活動状況等の報告書を作成	指揮班、情報班はブロックからの報告内容を整理報告	視察に関する意見を集約してブロックに提示

※訓練は少雨決行、雨天の場合は屋外への避難訓練のみ中止する。屋外避難訓練の有無は当日の10時20分までに決定し、館内放送にて周知する。

時刻	事項	学生	授業担当教員	研究室等の教員・院生	部局、事務局	ブロック(建物隊)	ブロック(本部隊)	全学自衛消防隊 (指揮班、情報班)	2センター (工作班、救護班)	災害対策本部
前日までの 事前準備	主な事前準備項目	ポスター、チラシによる周知 ・11:30から避難訓練があること ・安全行動の徹底 ・避難時の「おはしも」の徹底	2週間前を目途に当日の行動について、マニュアルを渡す。(部局を通じて)	ポスター、依頼文による防災訓練の行動の徹底 ・避難行動 ・安全行動	・所属部局の学生、院生、教員、職員への事前周知徹底 ・所属部局に属する自衛消防隊員の役割、担当、任務を徹底 ・ブロック防災訓練の準備  ・本部事務局は災害対策本部の図上訓練に向けた図上訓練を実施。10/8	・隊員の当日の役割・任務を確認(当日業務があり参加できない人も含めて) ・一次避難場所の確認、検討 ・記録(写真)班の配置事前準備 ・建物隊長訓示の準備	・隊員の当日の役割・任務を確認 ・防災備品の事前確認 ・ブロック内の当日参加予定状況を確認 ・トランシーバーの事前チェックと取扱者の事前研修(建物隊に配備する分も含めて) ・ブロック独自訓練の企画を参加者に周知する	・隊員の当日の役割・任務を確認 ・当日の段取りの事前確認 ・トランシーバーの事前チェックと取扱者の事前研修	【応急危険度判定センター】 ・被災建物応急危険度判定者の名簿作成 ・被災建物応急危険度判定優先順位の整理表の作成 ・災害時緊急対応医師名簿の作成(本人了解) 【救護センター】 ・救護センターの運営マニュアルの作成	当日の段取り、防災服装の事前確認
10月29日 10:20	地震防災訓練の当日周知放送(館内放送) ※雨天の場合は、屋外への避難行動の中止を放送				・災害対策本部本部に関しては訓練では初動の確認のみ					
10:30		授業着席	・授業開始時に説明(防災訓練の実施、11:30緊急地震速報→続く地震→安全行動→避難行動) ・避難に関して、教員の指示又は教員が選定した学生のリーダーの指示に従って非難行動するように説明	・研究室にいる教職員は、研究室の学生、院生に、防災訓練内容、11時30分からの安全行動、避難訓練について説明 ・実験室の状況を踏まえて安全行動の内容を確認		建物隊班長等は当日の訓練が円滑に進むように事前準備を実施	本部隊班長等は当日の訓練が円滑に進むように事前準備を実施	全学自衛消防隊班長等は当日の訓練が円滑に進むように事前準備を実施	全学自衛消防隊班長等は当日の訓練が円滑に進むように事前準備を実施 ・応急危険度判定センターの開設準備 ・救護センターの開設準備	本部員は11時に本部4号館に集合できるように準備。(所要時間を考慮して職場を出発。)
										(11:00) 本部4号館第9会議室に集合し、あらかじめ定められたグループごとに、視察ブロックに向かう。
					11:30分までに授業を終了		必要に応じて、車両交通規制のため要員は配置に付く			(11:20) 各ブロックに到着
11:30	一斉放送による緊急地震速報(館内放送・防災無線) 一斉放送による訓練地震発生説明(館内放送・防災無線)	緊急地震速報	緊急地震速報と同時に安全行動を学生に指示	緊急地震速報と同時に安全行動を実施	教員、職員の安全行動を実施	隊員は地震の揺れが終了するまでは安全行動	隊員は地震の揺れが終了するまでは安全行動	隊員は地震の揺れが終了するまでは安全行動	隊員は地震の揺れが終了するまでは安全行動	本部員は各ブロックの安全行動の実施、避難訓練を視察
(11:33)	揺れの終了後、一斉避難	避難訓練開始	避難訓練への参加を指示 安全な避難に向けて学生の避難行動を誘導		保安要員を残して避難訓練に参加	建物隊の行動マニュアルに基づいて、周囲の状況を確認しつつ集合場所へ移動 建物隊は12:00までは避難訓練に対応	本部設営			避難訓練の状況を視察
(11:45)					部局長と事務部長等は災害対策本部本部の立ち上げについての初動訓練を実施			全学自衛消防隊にブロックの本部設置状況等を報告	・応急危険度判定センターの開設実施 ・救護センターの開設実施 ・救護センターの開設担当の職員、登録された医師、看護スタッフ等救護センターに参集	
(11:50)						建物隊長は1次避難場所を待機している避難者(学生、教職員等)に訓示	豊田講堂事務棟B、工学B、理学B、農学Bは救護センター開設訓練に協力、ケガ人各1名を救護センターに搬送		・応急危険度判定センター資機材、マニュアル等の確認 ・救護センター 各ブロックのけが人を受け入れて救護訓練を実施	継続し避難訓練状況を視察
12:00	一斉避難訓練終了。宣言(館内放送・防災無線)	避難訓練終了	避難訓練終了	避難訓練終了	避難訓練終了	避難訓練を終了し、引き続き、午後のブロック独自訓練へ		全学避難訓練の実施状況を集約、終了	避難訓練、救護訓練実施、終了	総長は視察先ブロックから全学に終了宣言(館内放送、防災無線)
12:02	避難者解散 安否状況入力開始	安否入力訓練開始	安否入力訓練開始	安否入力訓練開始	ブロック独自訓練に参加	・建物ごとの避難訓練状況を本部隊へ報告(報告様式にて徒歩) ・建物隊ごとに参加者を確認し、「地震発生時チェックシート」と地震時行動マニュアルを確認する。	建物隊の報告を集約し、全学自衛消防隊へ報告(トランシーバー等)			引き続きブロックの防災訓練を視察
12:30	ブロック自衛消防隊訓練終了					ブロックの訓練終了	ブロックの訓練終了			ブロック訓練の視察終了、昼食後、午後図上訓練(本部4号館)へ
13:30								(指揮班長・情報班長は災害対策本部図上訓練に参加)		災害対策本部図上訓練開始
15:00										災害対策本部図上訓練終了
訓練後	評価、「報告書」作成・提出		授業担当教員は「報告書」を作成して部局に提出	研究室単位で「報告書」を作成	担当教員、研究室単位で「報告書」の取りまとめ	避難訓練についての写真を含めた「報告書」を作成	防災備品の片付け、確認	各班は訓練の実施状況をまとめて「報告書」を作成	各班長は訓練の実施状況をまとめて「報告書」を作成	全学の避難訓練の実施状況の報告終了、解散

※訓練は少雨決行、雨天の場合は屋外への避難訓練のみ中止する。屋外避難訓練の有無は当日の10時20分までに決定し、館内放送にて周知する。

## 全学一斉避難訓練時に講義中の教員の皆様へ

2013年10月29日(火)午前11時30分から名古屋大学地震防災訓練を実施します。

今回は午前11時30分に地震が発生するという形で全学一斉避難訓練を実施しますので、ご協力をお願いします。

今回の全学一斉避難訓練はブロック単位でブロック自衛消防隊(本部隊、建物隊)に運営していただきますが、事前の取組については各部局が把握しているので担当部局にお尋ねください。

全学一斉避難訓練は原則すべての教室で実施することとなっています。部局によっては異なった対応を予定することが考えられます。あなたの教室が避難訓練をどのような形で実施するのか、当該建物の一次避難場所はどこかなどを部局に確認してください。また、今回は緊急地震速報の放送時から安全行動の実施を屋外避難訓練に参加しない学生にもお願いしているのでパンフレットに従って安全行動をとるように学生に呼びかけてください。

雨天で屋外避難訓練を中止する放送があった場合は屋外避難を実施しない場合の要領でお願いします。

名古屋大学災害対策室

## ○屋外避難訓練を実施する場合

次の要領をお願いします。

### 10:30

#### 1. 授業開始時の説明

- 学生に訓練用のチラシを配布し、今日の授業は11時30分までの短縮で行うことと全学一斉避難訓練を実施することを学生に説明する。さらに緊急地震速報放送後の安全行動について、チラシにもとづいて説明する。
- 11時30分に、訓練緊急地震速報が流れること、そのあと訓練地震の放送にもとづいて一斉避難訓練を行うことを説明する。
- チラシにもとづいて安全行動の1-2-3について再度説明する。
- 一斉避難訓練は勝手に避難するのではなく、原則教員が引率して避難することを伝える。(教員が引率できない時は学生の中から引率者を決めておく。)
- 避難の一次避難場所について説明する。
- 一次避難場所に集合後は、ブロック自衛消防隊、建物自衛消防隊の指示に従い行動することを説明する。
- 全学一斉避難訓練後、12:00から安否確認入力システムに全員が入力するように説明する。

### 11:30

#### 2. 緊急地震速報の放送

- 放送時に普通の授業の場合は、各自で安全行動の1-2-3を実行するように指示します。実験室など危険性が高いと思われる場所にいる場合は、廊下で安全行動をとるように指示する。また、体育館など広い場所にいる場合も廊下に出る又は壁際によるなどした後に安全行動を実施するよう指示し、教員自らも率先して安全行動を実施するようにお願いします。
- 場所により、聞こえにくい場合もあるかもしれませんが、放送が聞こえない場合も時間が来たら聞こえたものとして進めるようしてください。

### 3. 地震発生の放送

- ・緊急地震速報が放送されてから10秒後に地震をイメージした音が流れ、地震が発生した旨の放送が流れます。地震の音は2分間継続する予定です。
- ・地震の音の放送が継続される間、放送が聞こえない場合は安全行動を開始してから2分間は安全行動を続けます。

### 11:35

#### 4. 避難の開始

- ・安全行動の終了後、安全に避難の開始するよう指示してください。
- ・「押さない・走らない・しゃべらない・戻らない」の**お・は・し・も**を守って安全に避難するよう呼びかけてください。
- ・教員は学生の避難の指揮を行い、学生が安全に避難するよう行動してください。  
避難の考えから
  - ① 無理をしない。(安全第1でお願いします。)
  - ② 下方優先の原則(階段で下の階の避難が行われているときは、上階の避難を停止してその場で待機する。)

### 11:45以後

#### 5. 学生の避難終了後の対応

- ・学生の避難訓練が終了したことを確認して、避難報告書を作成し建物自衛消防隊に手渡す。

### 12:00

#### 6. 安否確認システム入力

- ・教員の方も安否確認システムの入力をする。  
(これで訓練終了です。)

## ○屋外避難訓練を実施しない場合

何らかの理由で避難を実施しない場合または雨天で一斉避難を実施しない場合は次の要でお願いします。

### 10:30

#### 1. 授業開始時の説明

- ・学生に訓練用のチラシを配布し、今日は全学一斉避難訓練の予定があるが、このクラスは避難しないことを説明。また 11 時 30 分ぐらいに緊急地震速報が放送されること、それに引き続き地震発生の放送が流れることを説明する。
- ・避難は実施しないが安全行動の訓練は実施することを説明する。
- ・チラシにもとづいて安全行動の 1-2-3 について説明する。
- ・避難訓練を実施しないクラスは、少なくとも 11 時 50 分までは解散しない。
- ・一斉避難訓練は実施しないことを説明する。
- ・全学一斉避難訓練後、12:00 から安否確認入力システムに全員が入力するように説明する。

### 11:30

#### 2. 緊急地震速報の放送

- ・放送時に普通の授業の場合は、各自で安全行動の 1-2-3 を実行するように指示します。実験室など危険性が高いと思われる場所にいる場合は、廊下で安全行動をとるように指示する。また、体育館など広い場所にいる場合も廊下に出る又は壁際によるなどした後に安全行動を実施するよう指示し、教員自らも率先して安全行動を実施するようにお願いします。
- ・場所により、聞こえにくい場合もあるかもしれませんが、放送が聞こえない場合も時間が来たら聞こえたものとして進めるようしてください。

### 11:30

#### 3. 地震発生の放送

- ・緊急地震速報が放送されてから 10 秒後に地震をイメージした音が流れ、地震が発生した旨の放送が流れます。地震の音は 2 分間継続する予定です。
- ・地震の音の放送が継続される間、放送が聞こえない場合は安全行動を開始してから 2 分間は安全行動を続けます。

### 11:34

#### 4. 授業の再開

- ・安全行動の訓練後、授業を再開します。

### 11:55(授業を終える 5 分前)

#### 5. チラシの説明、および安否確認システムの入力を説明

- ・授業を少し早めに終わって、チラシの説明の時間をとり説明する。また、チラシにもとづいて安否確認システムの入力を説明する。

### 12:00

#### 6. 授業終了後の対応

- ・授業終了後、訓練報告書に所定事項を記入して建物自衛消防隊に手渡す。
- ・教員の方も安否確認システムの入力をする。

(これで終了です。)

※ 防災訓練についての質問は、部局または災害対策室にお問い合わせください。

【災害対策室 川端 東山内線 6040】

**全学一斉訓練報告様式(授業実施教員用)**

**2013. 10. 29**

**1. 授業をしている建物の名称**

**2. 教員の氏名**

**3. 安全行動訓練の実施の有無**

安全行動訓練を実施した。

安全行動訓練を実施しなかった。

**4. 避難訓練の実施の有無**

避難訓練を実施した。

避難訓練を実施しなかった。

**5. 授業を受けた学生の人数(把握していない場合は概数で可)**

名

**6. 今回の訓練についての感想意見(自由にご記入ください。)**

**※フロックの建物隊又は部局事務に提出してください。**

**全学一斉訓練報告様式(授業実施教員用)**

**2013. 10. 29**

**1. 授業をしている建物の名称**

**2. 教員の氏名**

**3. 安全行動訓練の実施の有無**

安全行動訓練を実施した。

安全行動訓練を実施しなかった。

**4. 避難訓練の実施の有無**

避難訓練を実施した。

避難訓練を実施しなかった。

**5. 授業を受けた学生の人数(把握していない場合は概数で可)**

人

**6. 今回の訓練についての感想意見(自由にご記入ください。)**

**※フロックの建物隊又は部局事務に提出してください。**

## 全学一斉避難訓練時に研究室に在室されている教員の皆様へ

2013年10月29日(火)午前11時30分から名古屋大学地震防災訓練を実施します。

今回は午前11時30分に地震が発生したことを想定して全学一斉避難訓練を実施しますので、ご協力をお願いします。

今回の全学一斉避難訓練はブロック単位でブロック自衛消防隊(本部隊、建物隊)に運営していただきますが、事前の取組については各部局が把握しているので担当部局にお尋ねください。

緊急地震速報が放送されたら研究室にいる学生、院生、教員の方すべてで安全行動の1-2-3を実施していただくようお願いします。さらに想定地震が収まったところで一次避難場所まで避難するようお願いします。

なお、避難する際、研究室にカギをかける、または保安要員を残す等防犯にも気を配って訓練を実施するようお願いします。

雨天で一斉避難を実施しない旨の放送があった場合は一斉避難は実施せず、安全行動のみ実施するようにしてください。

名古屋大学災害対策室

### ○避難訓練の要領

#### 10月29日以前に

##### 1. 地震時の安全行動と一次避難場所の確認

- ・大地震が発生した場合、研究室に滞在するものがどのような安全行動をとったらよいかを事前に話し合う。(実験室、高い本棚のある部屋などは廊下で安全行動をとる。比較的安全と思われる部屋は室内で安全行動をとる。)
- ・避難訓練時の一次避難場所を部局に問い合わせる。
- ・研究室内の学生、院生、教員にチラシ等を使って、防災訓練の内容を周知する。

#### 10月29日の朝

##### 2. 防災訓練の実施を再確認

- ・訓練緊急地震速報が流れること、そのあと訓練地震の放送にもとづいて一斉避難訓練を行うことを説明する。
- ・チラシにもとづいて安全行動の1-2-3について再度説明する。
- ・一斉避難訓練は研究室がまとまって避難することを伝える。
- ・避難の一次避難場所について説明する。
- ・一次避難場所に集合後は、ブロック自衛消防隊、建物自衛消防隊の指示に従い行動することを説明する。
- ・全学一斉避難訓練後、12:00 から安否確認入力システムに全員が入力するように説明する。

**11:30**

### 3. 緊急地震速報の放送

- 放送時に普通の授業の場合は、各自で安全行動の1-2-3を実行するように指示します。実験室など危険性が高いと思われる場所にいる場合は、廊下で安全行動をとるように指示する。また、体育館など広い場所にいる場合も廊下に出る又は壁際によるなどした後に安全行動を実施するよう指示し、教員自らも率先して安全行動を実施するようにお願いします。
- 場所により、聞こえにくい場合もあるかもしれませんが、放送が聞こえない場合も時間が来たら聞こえたものとして進めるようしてください。

### 11:30

#### 4. 地震発生の放送

- 緊急地震速報が放送されてから10秒後に地震をイメージした音が流れ、地震が発生した旨の放送が流れます。地震の音は2分間継続する予定です。
- 地震の音の放送が継続される間、放送が聞こえない場合は安全行動を開始してから2分間は安全行動を続けます。
- 安全行動の終了後、安全に避難の開始するよう指示してください。
- 「押さない・走らない・しゃべらない・戻らない」の**お・は・し・も**を守って安全に避難するよう呼びかけてください。
- 教員は学生、院生とともに行動し、全員が安全に避難するよう行動してください。

### 11:45

#### 5. 避難後の対応

- 一次避難場所に研究室の構成員全員が避難したことを確認し、その後は自衛消防隊の指示に従ってください。
- 避難訓練が終了したことを確認して、避難報告書を作成し建物自衛消防隊に手渡す。

### 12:00

#### 6. 安否確認システム入力

- 学生、院生の方に安否確認システム入力を指示するとともに、教員の方も安否確認システムの入力をする。

(これで訓練終了です。)

※防災訓練についての質問は、部局または災害対策室にお問い合わせください。

【災害対策室 川端 東山内線6040】

## 全学一斉避難訓練時に研究室に在室されている教員の皆様へ

2013年10月29日(火)午前11時30分から名古屋大学地震防災訓練を実施します。

今回は午前11時30分に地震が発生したことを想定して全学一斉避難訓練を実施しますので、ご協力をお願いします。

今回の全学一斉避難訓練はブロック単位でブロック自衛消防隊(本部隊、建物隊)に運営していただきますが、事前の取組については各部局が把握しているので担当部局にお尋ねください。

緊急地震速報が放送されたら研究室にいる学生、院生、教員の方すべてで安全行動の1-2-3を実施していただくようお願いいたします。さらに想定地震が収まったところで一次避難場所まで避難するようお願いいたします。

なお、避難する際、研究室にカギをかける、または保安要員を残す等防犯にも気を配って訓練を実施するようお願いいたします。

雨天で一斉避難を実施しない旨の放送があった場合は一斉避難は実施せず、安全行動のみ実施するようにしてください。

名古屋大学災害対策室

### ○避難訓練の要領

#### 10月29日以前に

##### 1. 地震時の安全行動と一次避難場所の確認

- ・大地震が発生した場合、研究室に滞在するものがどのような安全行動をとったらよいかを事前に話し合う。(実験室、高い本棚のある部屋などは廊下で安全行動をとる。比較的安全と思われる部屋は室内で安全行動をとる。)
- ・避難訓練時の一次避難場所を部局に問い合わせる。
- ・研究室内の学生、院生、教員にチラシ等を使って、防災訓練の内容を周知する。

#### 10月29日の朝

##### 2. 防災訓練の実施を再確認

- ・訓練緊急地震速報が流れること、そのあと訓練地震の放送にもとづいて一斉避難訓練を行うことを説明する。
- ・チラシにもとづいて安全行動の1-2-3について再度説明する。
- ・一斉避難訓練は研究室がまとまって避難することを伝える。
- ・避難の一次避難場所について説明する。
- ・一次避難場所に集合後は、ブロック自衛消防隊、建物自衛消防隊の指示に従い行動することを説明する。
- ・全学一斉避難訓練後、12:00 から安否確認入力システムに全員が入力するように説明する。

#### 11:30

##### 3. 緊急地震速報の放送

- ・放送時に普通の授業の場合は、各自で安全行動の1-2-3を実行するように指示します。実験室など危険性が高いと思われる場所にいる場合は、廊下で安全行動をとるように指示する。また、体育館など広い場所にいる場合も廊下に出る又は壁際によるなどした後に安全行動を実施するよう指示し、教員自らも率先して安全行動を実施するようお願いいたします。

- ・場所により、聞こえにくい場合もあるかもしれませんが、放送が聞こえない場合も時間が来たら聞こえたものとして進めるようしてください。

## **11:30**

### **4. 地震発生の放送**

- ・緊急地震速報が放送されてから10秒後に地震をイメージした音が流れ、地震が発生した旨の放送が流れます。地震の音は2分間継続する予定です。
- ・地震の音の放送が継続される間、放送が聞こえない場合は安全行動を開始してから2分間は安全行動を続けます。
- ・安全行動の終了後、安全に避難の開始するよう指示してください。
- ・「押さない・走らない・しゃべらない・戻らない」の**お・は・し・も**を守って安全に避難するよう呼びかけてください。
- ・教員は学生、院生とともに行動し、全員が安全に避難するよう行動してください。

## **11:45**

### **5. 避難後の対応**

- ・一次避難場所に研究室の構成員全員が避難したことを確認し、その後は自衛消防隊の指示に従ってください。
- ・避難訓練が終了したことを確認して、避難報告書を作成し建物自衛消防隊に手渡す。

## **12:00**

### **6. 安否確認システム入力**

- ・学生、院生の方に安否確認システム入力を指示するとともに、教員の方も安否確認システムの入力をする。

(これで訓練終了です。)

※防災訓練についての質問は、部局または災害対策室にお問い合わせください。

【災害対策室 川端 東山内線6040】

全学一斉訓練報告様式(研究室用)

2013. 10. 29

**1. 部局と研究室名**

--

**2. 報告者の職名と氏名**

--

**3. 安全行動訓練の実施の有無**

<input type="checkbox"/> 安全行動訓練を実施した。
<input type="checkbox"/> 安全行動訓練を実施しなかった。

**4. 避難訓練の実施の有無**

<input type="checkbox"/> 避難訓練を実施した。
<input type="checkbox"/> 避難訓練を実施しなかった。

**5. 訓練に参加した人数**

教員	名
学生・院生	名

**6. 今回の訓練についての感想意見(自由にご記入ください。)**

--

※フロックの建物隊又は部局事務に提出してください。

**全学一斉訓練報告様式(研究室用)**

**2013. 10. 29**

**1. 部局と研究室名**

--

**2. 報告者の職名と氏名**

--

**3. 安全行動訓練の実施の有無**

<input type="checkbox"/> 安全行動訓練を実施した。
<input type="checkbox"/> 安全行動訓練を実施しなかった。

**4. 避難訓練の実施の有無**

<input type="checkbox"/> 避難訓練を実施した。
<input type="checkbox"/> 避難訓練を実施しなかった。

**5. 訓練に参加した人数**

教員	人
学生・院生	人

**6. 今回の訓練についての感想意見(自由にご記入ください。)**

--

**※フロックの建物隊又は部局事務に提出してください。**

(災害対策室、総務課、環境安全支援課)

## 名古屋大学地震防災訓練における交通規制について

### 1. 趣旨

強い地震、大規模な火災など、学内の広範囲で非常時対応（多数の避難や消火、救出活動など）が必要とされる場合、学内及び周辺地域の安全確保と混乱防止のため、一般車両の入出構および学内移動は原則禁止とする。この原則に基づき、2013年10月29日の全学地震防災訓練において、一斉避難訓練の一環として東山キャンパスにおける車両交通規制を実施する。

### 2. 昨年度の実施状況

一斉避難訓練時の車両交通規制に関しては昨年度から取り組んでいるが、その状況は以下のとおりである。

- ・ 事前周知を徹底したことから、当日のゲート等での混乱はなかった。
- ・ 生命農学ブロックや全学教育棟などで車両規制を前提に道路に多くの学生が避難した。
- ・ 車両交通規制に関して大きな苦情や意見は無かった。(ウェブアンケート等)

### 3. 全学一斉避難訓練における東山キャンパスの交通規制

日時：2013年10月29日（火）11:30～12:00の30分間（全学一斉避難訓練の実施時間）

範囲：東山キャンパス全域

内容：

- ・ 原則として入構・出構および構内における車両移動を禁止する。
- ・ 学内関係者は、地震防災訓練に関連した文書、ポスター等により、学外関係者にはゲート周辺の看板やチラシ等を使用し、事前周知を行う。また、工事業者へは施設管理部から周知徹底する。
- ・ 車両の入構・出構・移動については、交通整理員の協力を得てチラシ等も用いて対応する。
- ・ 鏡が池ゲートでは、ゲート内に車両待機所を設置する。
- ・ 工学部8・9号館地区のゲート規制は実施するが、人員配置は行わない。
- ・ 訓練実施時間内の対応は、地震防災訓練の一環として守衛および各ブロック自衛消防隊が担当する。
- ・ 一斉避難訓練は少雨決行とする。雨天等の場合の全学一斉避難訓練の実施方法については、今後検討するので、その結果を交通規制に反映させる。

(配布チラシ (案) A5 サイズ)

# お願い

平成 25 年 10 月 29 日(火)11:30～12:00

『名古屋大学一斉避難訓練』

11:30～12:00は、東山全域で、車両の入構・出構・移動を**全面禁止**します。

※車両：二輪車、自転車を含みます。

- 地震災害や大規模火災など場合は、避難の安全確保と、消火・救出のため、一般車両の移動は禁止です。
- 規制時間の前後についても、地震防災訓練を実施中ですので、十分に注意して通行してください。

問い合わせ先＝052-788-6038 (名古屋大学 災害対策室)

緊急連絡先＝052-789-4917 (本部守衛室)

# 全学一斉避難訓練

## 訓練のねらい とお願い

名古屋大学の建物は一定の耐震性を有しており、一回の地震で倒壊するようなことはありませんが、強い揺れで建物が損傷したり、天井が落下する、未対策の家具が倒れる、棚のものが落ちるなどの危険性があります。

今年度の全学一斉避難訓練は、屋外・屋内放送設備による緊急地震速報に続いて、全員の安全行動の徹底と、屋外の一次避難場所（各建物の近くで指定）への避難などを行います。以下の説明をよく読み、行動内容を確認して訓練に参加してください。

大勢が一斉に避難する場合でも十分に対応可能かどうかを、訓練を通じて確認し、問題があればさらに計画を改善する予定です。全員が積極的に参加し、安全に避難できるかどうかを確認してください。

## 緊急地震速報

緊急地震速報が鳴ったら、強く揺れるまでの10秒間に迷わず安全行動できるように意識しておく必要があります。実験中の場合、本棚に囲まれた研究室にいる場合、階段を上っている場合、エレベーターの中にいる場合など、いろいろな状況を想定してみましょう。

## 安全行動の1-2-3



この安全行動を取る訓練は、米国で950万人が参加、日本でも行われています。恥ずかしがらずに各自で行動してください。

## 安全行動

場所により安全行動は異なります。教室などでは、机の下で頭を守り、机が動かないよう押さえる姿勢が一般的です（左図）。

実験室では、薬品などがあるため、できるだけ室外の安全な場所で身を守る姿勢をとります。

訓練では、緊急地震速報から10秒後に地震が発生し、2分間は強い揺れが続く想定です。その間、揺れているイメージを持って、安全行動を必ず続けてください（裏面の東北大の被害）。

## 安全に避難

揺れが収まったら、教員等の指示に従って屋外に避難します。急ぐ必要はありません。**お・は・し・も**を守って、落ち着いて整然と避難しましょう。

部局、建物などで一次避難場所や避難経路が決まっています。避難路に自衛消防隊が配置されている場合は指示に従ってください。

**お**: 押さない  
**は**: 走らない  
**し**: しゃべらない  
**も**: 戻らない

## 安否情報 入力訓練

避難を終えたら、点呼等を行い、放送等による指示で終了・解散です。そのあと12時から自分の安否状況を入力する訓練を行います（裏面参照）。

災害時に各自の情報を大学に伝えることは、全構成員の責務です。携帯電話などから名大ポータルにログインし、安否状況を入力してください。このシステムは、自分の安全が確保された時点で、状況を大学に報告するために使用されます。何度でも入力できます。

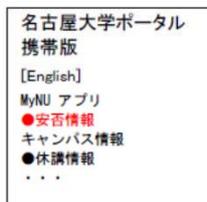
安否状況入力(名大ポータル) <https://mynu.jp/k/>

# 名大ポータルによる安否状況入力(携帯電話の例)

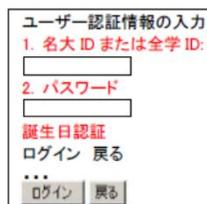
①名古屋大学ポータルにアクセス(<https://mynu.jp/k/>)  
右のバーコードでもアクセスできます。  
ブックマークなどを利用して、いつでも使えるようにしてください。



②トップページから「安否確認」を選択して安否確認システムに入り、「安否情報の入力」を選択します。



③ユーザー認証で、「名大ID(または全学ID)」と「パスワード」を入力してログイン。ID、パスワードがわからなければ、生年月日でも認証できます。ユーザー確認画面で自分の名前・所属を確認します。



④あなたの現在の状況や連絡先などを選択・入力してください。  
最後に「登録」ボタンを押して完了です。  
状況が変化したら、その都度入力すれば最新情報が記録されます。



4階建て校舎の4階部分の層崩壊



高層校舎の3階の柱の破壊



2階建て校舎の1階ピロティの柱がせん断破壊



実験室の火災

## 東日本大震災における 東北大学の被害



実験室内の状況:ドラフトが移動し、実験器具が床を埋める。



重い実験器具も移動する。人がいたら確実に挟まれる。



内開きのドアが開かず、壁を破って侵入した。



本棚が倒れてテーブルもつぶれる。

## 被災建築物応急危険度判定センターと救護センター設置について（案）

### 【目的】

地震発生時に、統括管理者のもと、自衛消防体制の全学的位置づけとして、学内専門家を参集し、災害対応にあたる。

### 被災建築物応急危険度判定センター（以下「建築物判定センター」という。）

#### （1）組織編成等

事務局施設管理部建築系職員、各部局建築系職員と環境学研究科、減災連携研究センター等の建築構造関係教員を応急危険度判定員として任命し、名簿の管理と事前教育を行う。

防災訓練時に、建築物判定センターの設置訓練と判定員の参集訓練を実施する。

#### （2）設置場所

災害対策本部指定場所（平成 25 年度 本部 4 号館第 7 会議室）

#### （3）担当する部署

全学自衛消防隊工作班長を中心とし、応急危険度判定員（施設管理部職員、関係教員）（特命措置）で担当する。

※ 部局等の自衛消防隊員名簿から除くことになる。

### 救護センター（以下「救護センター」という。）

#### （1）組織編成等

本部自衛消防隊救護班、学内の医師免許保持者、医療関係者が協力して災害時の負傷者の救護にあたる救護センターを設置、災害時救護にあたる医師免許保持者の協力を得て、名簿を作成し管理する。

防災訓練時に、救護センターの設置訓練と参集訓練を実施する。当日は、生命農学ブロック、工学ブロック、理学ブロック、豊田講堂事務棟ブロックから負傷者搬入対応訓練を実施する。

#### （2）設置場所

保健管理室（平成 25 年度）

#### （3）担当する部署

全学自衛消防隊救護班長を中心とし、保健管理室員、医師（特命措置）で担当する。

※ 部局等の自衛消防隊員名簿から除くことになる。

(関連訓練)

## その他関連訓練について (案)

名古屋大学地震防災訓練時に、関係者の協力のもと、実効性のある災害対応業務として任務にあたるため、関連訓練として整理し、継続性を維持したい。

### アイソトープ関係

(1) 組織編成等

名古屋大学原子力委員会のもと、放射線施設の関係者で構成された緊急連絡体制を組織としている。例年独自訓練として実施している。

防災訓練時に、「放射性同位元素等取扱施設における状況通報書」に基づく、情報伝達訓練を実施する。(平成 25 年度実施予定。)

(2) 設置場所：核燃料等物質の取扱施設の指定場所

(3) 担当する部署

名古屋大学原子力委員会、事務局研究協力部を担当とする。

### 危険物取扱い関係

(1) 組織編成等

環境安全衛生管理室のもと、化学物質、高圧ガス等を各研究施設で管理している。

防災訓練時に、被害想定において、火災発生等を想定に緊急対応訓練を実施したい。(平成 25 年度は実施しない。)

(2) 設置場所：災害対策本部の指定場所

(3) 担当する部署

環境安全衛生推進本部及び環境安全衛生管理室を担当とする。

### 守衛室、警備関係

(1) 組織編成等

平時の緊急連絡体制のもと、東山地区内各守衛室間の応援体制を維持した緊急連絡体制を組織としている。

防災訓練時に、本部守衛室を核として各守衛室と実際にトランシーバ情報伝達訓練を実施する。本部守衛室においては、名古屋市営地下鉄名古屋大学駅長に訓練開始、終了の電話による情報伝達訓練を実施する。(平成 25 年度実施予定。)

(2) 設置場所：本部守衛室、各建物守衛室

(3) 担当する部署

施設管理部環境安全支援課及び関係業者を担当とする。

### アマチュア無線局関係

(1) 組織編成等

名古屋大学防災無線運用要項のアマチュア無線運用細則のもと、情報通信手段の一助として緊急連絡体制を構築する。防災訓練時に、無線局を開設し試行してみる。

(平成 25 年度実施予定。)

(2) 設置場所：全学自衛消防隊の指定場所

(3) 担当する部署

任意団体(教職員アマチュア無線クラブ)を主担当とする。

## 放射性同位元素等取扱施設における状況通報書(第 報)

送付先：原子力規制委員会原子力規制庁原子力防災課事故対処室

1. 記入日時：平成 年 月 日 ( ) 時 分
2. 事業所名：  
 事業所区分：許可使用 届出使用 販売 賃貸 廃棄  
 所有線源等：密封線源 ( )  
非密封線源 ( )  
放射線発生装置 ( )
3. 異常事象等発生(確認)日時：平成 年 月 日 ( ) 時 分
4. 具体的な場所の名称： \_\_\_\_\_  
 ・区域区分：管理区域 管理区域外 不明  
 ・状況  
 ①施設・設備の異常故障 有 無 確認中  
 ②被ばく 有(推定線量 mSv) 無 確認中  
 ③汚染 有 無 確認中  
 ④放射性物質異常漏えい 有 無 確認中  
 ⑤人身事故 有 無 確認中  
 ⑥爆発の可能性 有 無 確認中  
 ⑦危険時の措置 危険なし 措置済み 未処置  
 ⑧その他 ( )
5. 異常事象発生状況・概要  
 ・状況概要(いつ・誰が・何を・どうした・なぜ)
6. 連絡済個所：県 市町村 警察 消防 その他 ( )
7. プレス発表の可能性：有 無 検討中
8. 本件の問合せ先：  
 連絡責任者の氏名、所属：  
 連絡責任者の電話番号：  
 連絡責任者のFAX番号：  
 連絡責任者のメールアドレス：  
 注) 発生場所がわかるようにできるだけ図面を添付する。

平成 25 年 9 月 27 日

各ブロック防災管理者 様

災害対策室長

飛 田 潤

名古屋大学地震防災訓練（10 月 29 日実施）における  
ブロック自衛消防隊の対応について（依頼）

名古屋大学の防災体制の構築に関し日頃お世話になっております。

今年度の名古屋大学地震防災訓練では、防災体制の要であるブロック自衛消防隊（本部隊・建物隊）に大きな役割が期待されますので、下記の取り組みをしていただきますよう  
よろしくお願ひします。

記

1. 事前の自衛消防隊の組織化の確認

ブロック自衛消防隊（本部隊・建物隊）の組織が構築されているか、職員の異動等に  
対応しているか、自衛消防隊員であることを当人が自覚し承知しているか、などを訓練  
前に確認を行う。

2. 自衛消防隊員への周知

ブロック自衛消防隊員として訓練当日の配置、行動等をイメージできるようにしてお  
く。

3. 訓練当日、防災時備品等を用いたブロック本部隊の確立

一昨年度購入した発電機、投光器、TV等を本部に設置し、ブロック本部隊としての  
共通備蓄品として認識できるように取り組む。

4. トランシーバーを活用した災害対策本部とブロック本部隊との通信網の構築

トランシーバーは使用に熟練しないと正確な情報通信には使えません。事前訓練も含  
めて、当日の情報通信が適正に機能するような準備を行う。

5. ブロック独自訓練

ブロック内構成員の防災意識向上のため、独自訓練を企画し実施願ひます。実施日時  
については、10 月 29 日の午後、または他の日に行う。

6. ブロック連絡調整会議の開催

ブロック全体に防災対策方針の周知等のため、ブロック連絡調整会議を 1 回以上開催  
するよう努める。

7. 報告書の作成

建物隊の報告書を取りまとめるとともに、ブロック自衛消防隊の参集訓練、ブロック  
本部設置、ブロック独自訓練の実施状況等の写真を添付し、参加人数等をまとめた防災  
訓練報告書の作成を行い、災害対策室に送付する。

以上

## 全学自衛消防隊・ブロック報告集約様式

(単位：人)

ブロック名	自衛消防隊の参加者数	避難訓練参加者数
豊田講堂事務棟ブロック		
文系ブロック		
理学ブロック		
工学ブロック		
生命農学ブロック		
研究所ブロック		
附属学校ブロック		
鶴舞・医学系ブロック		
鶴舞・病院ブロック		
大幸ブロック		
合計		

## ブロック自衛消防隊本部隊・地震時チェックシート（第1次案）

ブロック名		記載者	
建物隊名		チェック時刻	日 時 分

### チェック項目

チェック項目	チェック欄	注意事項等
1 集合状況	<input type="checkbox"/> 本部隊の集合確認 _____ 人集合 <input type="checkbox"/> ブロック防災管理者 集合・連絡済・未連絡 <input type="checkbox"/> ブロック統括管理者 集合・連絡済・未連絡	
2 ブロック本部 の設営	<input type="checkbox"/> 本部の設営 ・設営済み ・設営不能 ・設営中 <input type="checkbox"/> 全学自衛消防隊との通信確保 ・トランシーバー確保 ・防災無線確保 ・通常電話携帯等通話 ・通信不能 <input type="checkbox"/> 予備電源と照明器具の確保 ・設置済み ・設置不能 ・設置中	
3 全学自衛消防 隊との通信	<input type="checkbox"/> 全学自衛消防隊との通信 ・実施した ・実施できていない	
4 建物自衛消防 隊との連絡	<input type="checkbox"/> 連絡済建物隊数 _____ <input type="checkbox"/> 未連絡建物隊数 _____	
5 R I 施設の点 検	<input type="checkbox"/> R I 施設の点検 ・チェックシート集約 ・未集約	該当なしの場合は項目を斜線
6 危険物の確認	<input type="checkbox"/> 危険物に関する災害の有無 ・該当全建物の安全確認 ・異常確認 ・確認未了	該当なしの場合は項目を斜線
7 バイオ危険物 の確認	<input type="checkbox"/> バイオ危険物に関する災害の有無 ・該当全建物の安全確認 ・異常確認 ・確認未了	該当なしの場合は項目を斜線
8 その他		

## 名古屋大学地震防災訓練・本部隊・集約様式

※ブロックの本部隊→全学自衛消防隊へ

(トランシーバ又は防災無線)

## 1. ブロック自衛消防隊・本部隊名

--

## 2. 避難訓練の参加予定人数等

訓練に参加したブロックの本部隊と建物隊の人数	避難訓練に参加した学生・職員の概数
人	人

## 3. その他連絡事項

--

## ブロック自衛消防隊建物隊・地震時チェックシート（第1次案）

ブロック名		記載者	
建物隊名		チェック時刻	日 時 分
チェック項目			
チェック項目	チェック欄	注意事項等	
1 集合状況	<input type="checkbox"/> 建物隊の集合確認 _____人集合		
2 建物被害状況	<input type="checkbox"/> 建物の被害（該当するものを丸で囲む（以下同じ）） ・ 壁、柱 ・ 窓ガラス ・ 天井 ・ 照明 ・ 家具 ・ その他（具体的に_____）		
3 避難	<input type="checkbox"/> 避難人数 約_____人 <input type="checkbox"/> 建物内の残留者 有・無・不明 <input type="checkbox"/> 安全放送の有無 実施した・未実施	建物内への再入場不能の場合は避難者に部屋ごと確認して残留者の可能性を検討すること。	
4 建物内への再立ち入り判断	<input type="checkbox"/> 建物への再立ち入り判断 ・ 可能 ・ 不可 ・ 不明		
5 エレベータの閉じ込め	<input type="checkbox"/> エレベーターへの閉じ込め ・ 有 ・ 無 ・ 不明		
6 建物の点検	<input type="checkbox"/> 建物の点検 ・ 実施済み ・ 実施中 ・ 実施不可 ・ その他_____		
7 火災の有無	<input type="checkbox"/> 火災の有無 ・ 火災無 ・ 火災発生 ・ 不明		
8 けが人の有無	<input type="checkbox"/> けが人の有無 ・ けが人有_____人 ・ けが人無	けが人は把握している範囲でチェック	
9 ブロック本部との連絡	<input type="checkbox"/> ブロック本部との連絡 ・ 実施済み ・ これから		
10 R I 施設の点検	<input type="checkbox"/> R I 施設の点検 ・ チェックシート作成 ・ 不明	該当なしの場合は項目を斜線	
11 危険物の確認	<input type="checkbox"/> 危険物に関する災害の有無 ・ 安全を確認 ・ 異常発生 (異常の内容_____)	該当なしの場合は項目を斜線	
12 バイオ危険物の確認	<input type="checkbox"/> バイオ危険物に関する災害の有無 ・ 安全を確認 ・ 異常発生 (異常の内容_____)	該当なしの場合は項目を斜線	
13 その他			

名古屋大学地震防災訓練・建物隊・報告様式

2013年10月29日正午現在

1. 建物隊の名称

2. 報告者の職名と氏名

3. 建物隊の参集人数

4. 一次避難場所への避難者数（概数でも可）

5. 一次避難場所での問題点等

この様式は訓練日の正午を目途にブロックの本部隊に提出してください。

## 建物隊・活動報告書

## ○記入要領

1. この報告書は、ブロック自衛消防隊建物隊の訓練が終了後速やかに作成、本部隊に提出してください。
2. 集計結果は名古屋大学地震防災訓練の今年度の総括と来年度の企画に役立てます。
3. 自衛消防隊の参加者数等は、訓練中に報告されたものと異なっても構いません。

記入者：

建物隊名：

番号	調査項目	回答欄
1	一斉避難訓練	
	一斉避難訓練への参加者数	学生 人、教職員 人、合計 人
	安全姿勢のみによる訓練参加者数	学生 人、教職員 人、合計 人
2	一次避難場所	
	今回の一次避難場所はどこに設置しましたか？	具体的に記載
	広さは十分か？	( ) 今回の避難人数からしても狭すぎる。 ( ) 今回の避難人数であったら避難できるが全員では問題 ( ) 今回の避難訓練の結果、本番でも広さとしては問題な
	危険物等避難上の問題はあったか？	( ) ない。 ( ) ある。具体的に記入
	一次避難場所までの避難経路に問題は無いのか？	( ) ない。 ( ) ある。具体的に記入
	その他一斉避難訓練について問題はなかったか？	( ) ない。 ( ) ある。具体的に記入
3	建物隊の活動	
	参加者数は	人
	建物隊地震時行動計画（マニュアル）は確認しましたか？	( ) 確認したが問題は無い。 ( ) 確認しなかった。 ( ) 確認した結果改善すべき点が明らかになった。 具体的に記入
	建物隊チェックシートは確認しましたか？	( ) 確認したが問題は無い。 ( ) 確認しなかった。 ( ) 確認した結果改善すべき点が明らかになった。 具体的に記入
4	ブロック自衛消防隊本部隊との連携	
	訓練当日の連絡体制はうまく行きましたか？	( ) 一応うまく行うことができた。 ( ) 改善点があると思われた。 具体的に：
	事前のブロック連絡調整会議に参加できましたか？	( ) 参加できた。 ( ) 参加できなかった。 ( ) その他（具体的には )
5	2013 名古屋大学地震防災訓練全体に対する問題点又は意見など	具体的に記入

※1 各設問の ( ) には該当するところに○を記載してください。

※2 具体的に記入するうえで、不足する場合は裏面に記入願います